

## 令和7年度 湯沢市総合教育会議 議事録

日 時：令和7年10月8日(水)  
午後2時～午後4時  
場 所：本庁舎2階 会議室25・26

### ◆出席者

湯沢市長	佐藤 一夫
湯沢市教育委員会 教育長	武石 瞳
委 員	後藤 美喜子（教育長職務代理者）
委 員	築瀬 均
委 員	佐藤 恵
委 員	久米 道人

### 1. 開会

＜総務課長＞

ただ今から、令和7年度湯沢市総合教育会議を開催いたします。  
はじめに市長より挨拶を申し上げます。

### 2. 市長挨拶

＜市長＞

お忙しい中、出席いただきまして心から感謝申し上げます。また、日頃から教育行政の推進に御尽力いただいておりますことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

令和7年度からの湯沢市教育大綱について、昨年度、教育委員の皆様に御議論いただき、策定したところであります。今回の総合教育会議では、この計画に基づいた進捗状況等を説明させていただき、これに対して忌憚のない御意見をいただきながら次年度に向かっていきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

### 3. 教育長挨拶

＜教育長＞

まずもって総合教育会議を開催していただきましてありがとうございます。  
教育委員会事務局といたしまして、教育大綱の基本方針に基づき、教育委員の皆様から御意見や御指導をいただきながら、教育行政を前に進めているところであります。本会議でございますが、教育委員会の様々な施策について市長のお

考えをお聞きしたり、また、委員の皆様の考えを直接市長にお話ししたりできる貴重な機会と捉えております。委員の皆様におかれましては、遠慮なさらないで日頃お考えのことを発言いただけとありがたいと考えております。特に、本日の協議事項等は喫緊の課題であり、幅広い意見交換を期待しております。どうかよろしくお願ひします。

#### 4. 協議事項

湯沢市総合教育会議要綱第4条第1項の規定により市長が進行

##### (1) ICT 環境の充実

学校教育課長が資料1に基づき説明

<後藤委員>

今やパソコンは単なる道具ではなく、子どもたちの考える力や伝える力を引きだし、想像力を育む相棒のような存在になっていると感じている。

ICT の普及について、デジタルに強い教員とそうではない教員がいる中、市では導入時から支援員をいち早く派遣し、力強い支援をしていただいたことをありがたく思っている。また、令和2年に一人一台のパソコンを一斉に持つことになり、子どもたちはもちろんのこと、教員も戸惑ったことと思うが、湯沢西小学校が県の「ICT を活用した授業改善支援事業」のモデル校として研究を重ね、他学校に波及させてきたことは、教員全体の指導力の底上げにつながったと考えている。湯沢西小学校は ICT を活用した学習について大きな財産を持っているので、ますますの研鑽を重ねていただきたい。

また、パソコンが5年で更新の必要があるということで、多額の財源をかけてくださることに感謝する。

<築瀬委員>

ICT を活用した学習について、先進国が率先して進めており、日本もそれに倣ってきたが、先進国の中にはすでに ICT の活用の見直しをしている国もある。例えば、ICT の普及前は時間をかけて教科書や資料を読み解くことで、読解力がついていたが、ICT を使うことすぐに解答が得られるようになった結果、読解力が低下したデータが出たことで、見直しがかかった国があるとのこと。

また、日本の大学入試では読解力や文章や意見をまとめる力も求められる。さらに、私自身が日常で ICT から欲しい解答を得る際には、一つ一つ順序だてて聞きたいことを入力する表現力、国語力が必要であることを感じている。ただ ICT 環境を充実させるだけでなく、活用するための国語力を身に付けさせる必要があると考える。

### <佐藤委員>

学校教育において ICT を活用した授業を実施したことで、子どもたちはパソコンを使って、新聞のように見やすく、わかりやすい文章をまとめて発表をするなど、年々できることが増えていくことに驚きを感じていると同時に、市の環境整備に感謝している。

また、インターネットを介した外の世界の広がりや関わり方、その危険性についても授業に取り入れていると聞いている。子どもたちにとって、将来のためにも非常に良い学習環境であると感じており、そのために多額の費用がかかっていることも理解しているので、高価で大切なものを自身の子どもにも教育している。今後も ICT 環境の充実のために、市のバックアップをお願いする。

### <久米委員>

私自身、中学生と小学校低学年の娘があり、中学生の子が毎日タブレットを持ち帰って調べ物をしたり、学習をしたりする光景が日常になって久しい。使いたい時に使い、常にそばに置けることはありがたいことである。小学生の子もタブレットの持ち帰りはできないものの、学校でタイピングの点数を友達と競っている話を聞く。社会に出るうえで必要なスキルを学校で気兼ねなく学べていることは、一人の保護者として非常に助かっている。

また、委員として学校を訪問し、授業を視察した際には、児童生徒、教員どちらもスムーズにタブレットを扱っているように感じた。授業では、子どもたちが考えた解答を教員のタブレットに送信し、スクリーンに映し出すことでそれともとに授業を進めていた。全員が授業に参加し、教室に一体感が生まれており、手をあげて発表することが苦手な子どもたちも参加できる非常に良い授業と感じたところである。以上から、これら事業は市教育大綱の教育理念に矛盾せず、学校環境の充実につながっているものと考える。

デジタル機器の進化、子どもたちのスキルアップに伴い、ネットリテラシー教育が大切になってくる。市ではこれまでに熱心に取り組んできたと思うが、報道では詐欺等が SNS を通じて横行している。今の児童生徒はネットでの情報発信や人脈の拡大に抵抗がない世代である。環境自体もどんどん刷新されているので、学校での安全教育も継続、更新をお願いする。

### <教育長>

委員の皆さんのお意見にもあるとおり、教員のデジタル機器の扱いについて、それぞれの得手不得手による活用の差はなくなってきてはいるが、苦手な教員が授業での活用に二の足を踏むケースはまだまだあると感じている。その点について、教育委員会でも研修を通じてそのような教員への支援を計画的に実施

しており、校内でも教員同士で活用についての研修をしているようである。牛歩ではあるが、徐々に平準化も進んできている。

久米委員の御意見のとおり、我々大人もついていけないほど日々の ICT 環境の進化には目覚ましいものがある。教育分野においても、民間企業を中心に教材等の売り込みが多くあるが、最新技術の導入だけでなく、本市の子どもたちにとって何がプラスになるか、必要であるかを見極めながら活用し、子どもたちのより良い将来に結び付けていきたい。

また、子どもたちが家庭で端末を活用する光景に、保護者の皆様が関心を持つていただけていること、端末の購入や更新に多額の費用がかかっていることをご理解いただき、大切なものであることを子どもたちに教えていただいていることに感謝している。これらの事業について、引き続き情報発信をしていきたい。

＜市長＞

学校教育における ICT 活用は積極的に実施していきたいと考えておらず、他自治体に先駆けてできることがあれば、どんどんトライしてほしいと考えている。ただし、築瀬委員の御意見のとおり、読解力等の低下には注意したい。端末がなければ何もできない子どもにならないように、それらがなくても色々なことができるということも併せて教育していかなければならぬ。湯沢西小学校で先陣をきって研究を進めたノウハウを活用して、他学校も同様のレベルになるよう努めていただき、それを子どもたちに教授していただきたい。

また、ICT は日々進化し、行政においても生成 AI を業務でどのように活用していくか検討しているところである。学校教育においても生成 AI を活用するとのメリットとデメリットを含めて、子どもたちに教育をしていく必要があると考えている。

## （2）空調設備等の充実

学校教育課長が資料 2 に基づき説明

＜佐藤委員＞

夏場に学校訪問をすると、エアコンが整備されたことで子どもたちは非常に良い環境で学習できている。今後も財源が許す限りは、特別教室等の空調設備の整備を実施していただきたい。

＜久米委員＞

子どもたちは大人に比べて外気温の影響を受けやすい。エアコンの設置については、佐藤委員の御意見のとおり、限りある財源と長期休暇にしか整備ができないという時間的制約がある中で、優先順位を高くして事業を実施していただき

き感謝している。各特別教室の空調の整備については、これまでの使用頻度をもとに優先順位を決定していたと思うが、熱気のこもる上階の特別教室等にはエアコンの整備をしていただきたい。

＜後藤委員＞

かつての日本はこれほど熱くはなかったが、現在は暑い期間が長期化している。体育館について、1階しかない体育館も厳しい暑さだが、2階がある体育館の暑さは大変なものである。異常気象が各地で多発する中、本市においてもいつ何が起きてもおかしくない時代である。学校の体育館は避難所にも指定されていることから、エアコンの整備の検討をお願いしたい。また、雪を貯蔵して夏場に活用するなど、雪国ならではの対策も検討できたら、と考えている。

＜教育長＞

四季が二季になるのではと考えるほど、暑い期間が長期化している。そのような中で、急激な温度変化で体調を崩す児童生徒が増えている。現在はすべての小中学校の普通教室で空調が整備されているが、利用頻度が少ない特別教室の中でも、授業の特質上、窓を開けられないなど制約がある中、教員が工夫をして授業を実施している。限られた予算ではあるが、現場の状況をしっかりと聞き、重要度を吟味したうえで整備を行っていきたい。

また、体育館の LED 化については、実施済みの学校からは非常に好評をいただいている、今後も整備に努めていきたい。

温暖化が顕著であることから、今後も丁寧に学校環境の整備を進めていきたいと考えているので、よろしくお願ひする。

＜市長＞

後藤委員の御意見のとおり、体育館は避難所としても使用されることを考慮するとエアコンの整備は検討の必要があると考えているが、これに伴う財源は特別教室とは段違いとなる。しかし、避難所であることから、防災関係の財源を充てられないか等、今後も継続して検討していきたい。

体育館の LED 化については、ゼロカーボンの観点からも今後も計画的に進めていきたいので、よろしくお願ひする。

### （3）部活動地域移行

生涯学習課長が資料3に基づき説明

＜佐藤委員＞

部活動地域移行が徐々に進んでいることを今年度に入ってより感じている。今まで、教員が経験したことのない部活動を指導しなければならないことは負担になっていると考えていたので、国や県のガイドラインを踏まえながら、移行を進めていくことは教員の負担軽減になり、子どもたちも質の高いより専門的な指導を受けることができるようになるのは良いことである。

また、スポーツを通して地域の方と交流をすることで、指導者と子どもたちへの良い影響になり、教員についても、その部活の経験の有無に関わらず、協力いただければ、子どもたちのより豊かな経験につながる。移行は時間がかかると思うが、各関係者との協力、市のバックアップをよろしくお願ひする。

＜久米委員＞

部活動地域移行の計画を知るとともに、今までの教員の働き方についてもクローズアップされ、私自身も初めて知ることが多くあった。平日休日に関係なく、業務外に部活動の指導をしている教員のことを考えると、迅速な地域移行を考えてしまうが、部活動の中心は子どもたちであり、保護者の皆様のことを考えると難しいものがある。地域や各部活動によって状況が違うこともあるので、話し合いを重ねながらじっくりと取り組んでいただきたい。

また、最近は「部活動地域移行」という言葉から「部活動地域展開」に変わってきており、国のガイドラインも今後また変化していく可能性もある。教員も市町村をまたいだ異動が多々あるので、近隣の他市町村とある程度足並みをそろえる必要もあるのではないか。これらを踏まえ、やはり時間をかけて準備を行い、地域移行を進めていっていただきたい。

＜後藤委員＞

令和5年度から令和7年度の間に地域移行を進めなさいという国の指針が出た際に、本当に可能なのだろうかと感じていた。事務局に地域移行コーディネーターを置き、地域の関係団体やPTA、学校関係者との協議と説明を重ねていただいたおかげで、運動部については方向性が見えてきている。

吹奏楽部、合唱部について、今まで湯沢市は非常に優秀な成績を収めてきた。先日のサマーミュージックフェスティバルでその子どもたちが一緒に頑張っている様子を見て、同じクラブで部活動に取り組んだとしたら、市の代表として素晴らしい結果を出せるだろうというイメージを持った。現在、どのようなかたちで部活動を継続するかを各々話し合っている段階と思うが、児童生徒が減少していく中、一緒になって活動するのは十分可能であると考える。市は「音楽のま

ち“ゆざわ”」を宣言しており、様々な事業を実施している中でウェルビーイングなまちになってきていると感じている。部活動についても、よく話し合ってよいかたちで進めていただきたい。

#### <築瀬委員>

部活動地域移行は教員の負担軽減につながるが、なんだかさみしい気持ちになる先生もいるのではないかと感じている。一方で地域の方は負担が増えることになるが、子どもたちの頑張りを間近でみて、地域の方も応援したいという気持ちが湧いてくるのではないか。学校という枠組みを超えて、子どもたちの生活と地域のつながりが強まり、部活動の面だけでなく、子どもたちの生き方に非常に影響を与え、郷土愛が育まれると考えている。

#### <教育長>

令和5年度にスタートした部活動地域移行であるが、糸余曲折があったものの少しずつ前に進み、徐々にかたちができてきていると捉えている。これからいくつかの種目が実際に地域移行をすることで、保護者の皆様や関係者の方々が具体的なイメージを持つことができるようにすると、ますます地域移行は加速するのではないかと期待感を持っている。現在、運動部が中心となって移行を進めているが、事務局も非常に丁寧な対応を徹底している。これからも保護者の皆様や学校、種目の関係団体等と丁寧な協議、説明会を実施していくので、今後も御指導をお願いしたい。

後藤委員の御意見のとおり、吹奏楽部、合唱部は地域の宝である。各地域にも部活動を支えてくださる方々が今も大勢いらっしゃり、それがよいかたちで地域移行につながればと考えている。地域で子どもたちを応援するかたちを続けることで、一度湯沢を離れた若者が今度は自分が子どもたちを支えるために戻ってくるように官民一体となって進めていかなければならない。

一方で、教員もその道の専門家ではないものの、今まで培ってきた部活動を運営、指導していく上で必要なノウハウを持つ方が多くいる。そのような方々の力も借りながら、地域移行を順調に進めていきたい。

#### <市長>

私の意見としては、教員の働き方改革ももちろんだが、子どもたちの部活動の選択肢を減らしたくないということが一番と考えている。児童生徒数が減少する中で、学校ごとの部活動という体制で選択肢を減らさないようにすることには限界があることから、地域という大きな枠組みに部活動を移行していくということである。移行にあたっては、練習場への移動手段や指導者の確保、待遇等の様々な課題があるが、競技ごとにしっかりと話し合う必要がある。

部活動地域移行への捉え方は様々であり、「移行してチームの人数が増えるこ

とでより強く勝てるチームになる」というポジティブな意見もあれば、「一生懸命頑張れば、上手くなくても試合に出られたのに困る」という意見も聞くことがあった。様々な立場の人が納得できるようななかたちにしなければいけないと実感した。しかし、子どもたちは数年であつという間に卒業してしまう。じっくりと進めるのも大切だが、ある程度スピード感をもって進めるよう、よろしくお願ひする。

#### （4）学校再編計画 教育総務課長が資料4に基づき説明

＜久米委員＞

学校の統廃合を考えたとき、子どもたちの移動距離と時間が問題となり、地域の若者が定住しなくなり、結果として地域の元気がなくなるのではないかという心配が聞こえてくる。個人的にも皆瀬地域には大変お世話になっており、仮に元気がなくなってしまえば大変さみしい気持ちである。一方で、児童生徒や教員が減っており、学校が公共の施設である以上は仕方のことだと理解している。現保護者、これから入学される児童生徒の保護者に対して、一度きりではなく、丁寧な説明をしていただきたい。

＜後藤委員＞

令和元年度策定の計画では、児童生徒数の推移を見ながら検討していくとのことだったが、現在、一学年で数人しかいない学校がある状況では、早急に手を打つべきではないかと考える。子どもたちが学ぶ環境はどうあれば良いかと考えたとき、このままでは良くない。なによりも子どもたちに焦点をあてて考えなくてはいけない。地区の地理的な事情等あるかと思うが、幼稚園、保育園の保護者、小中学校の保護者とよく話し合いをしていただきたい。

＜築瀬委員＞

教え子が県外に就職したと思ったら、ペットが可愛いがために湯沢市に戻ってきた経験があり、若者が地元に戻ってくるには、愛着あるものが地元にあれば良いと考えた。また、魅力ある若者が湯沢にいれば、それに魅かれて県外からやってくる若者もいると考えている。学校教育においても、教員による勉強面やスポーツ面の指導はもちろんだが、人としての教育、人間教育をしていくことも少子化対策として大切な面ではないか。

### <佐藤委員>

私自身が皆瀬地域に住む中で、保護者の方々から「今の人�数が少ない今まで良い」という意見もあれば、「人数が多い方が、より多くの学びが得られるので統合した方が良い」、「スクールバスの方がクマも避けられるので良い」、部活動においても「もともと合同練習をしているので統合した方が良い」という様々な意見が聞こえてくる。資料4にもあるとおり、地域の方々と多くの話し合いを重ねながら、よりよい学校の在り方を考えていきたい。

### <教育長>

教育環境の捉え方として、通学時間、距離がよくクローズアップされるが、授業や行事等の学校生活の中での学びの濃度、密度も考慮しなくてはならない。

昨年度、湯沢北中学校と湯沢東小学校5、6年生が合同で、講師を招いての授業が実施された。小学生は中学生を前に堂々と意見を述べ、中学生はしっかりと耳を傾けていた。一方、中学生はある程度きちんと整った意見を発表しており、それに小学生がうなずきながら聞く様子を見て、子どもたちが質の高い、深い学びを得るにはどのような環境が適切かと考えさせられた。意見交換するような場において、ある程度小規模な学校であれば、よりフランクに実施することが可能だが、一方であまりにも集団が小さくなると、意見の偏りが起きやすく、教員が授業に工夫をする必要が出てくる。学校の児童生徒数も含めてどのような学校教育環境が適切であるかを改めて整理しながら、地域の方としっかりと話し合いを重ねていきたい。

また、築瀬委員の御意見にもあるとおり、若者が地元に残るとき、重要なになってくるのは愛着など心の部分が大きいように感じる。学校教育における、人間的な部分の教育も大切にしていきたい。

### <市長>

来年度統合予定である山田中学校の現在の状況はどのようにになっているか。

### <教育総務課長>

山田中学校は統合準備会を設置し、来年4月、湯沢南中学校との統合を目指して準備と話し合いを進めている。準備会は更に5つの部門に分かれており、滞りなく準備が進んでいる。通学の検討部会においては、通学環境の整備をするために横断歩道の設置、グリーンベルト設置の要望等をいただいている。各要望について、市が対応可能であれば対応し、警察の管轄であれば要望をあげ、準備を進めている。全体としては順調に進んでいる。

また、スクールバスを新たに2台購入することになるので、湯沢南中学校における乗降場の拡大や車庫の建設等の環境整備も進めている。

<市長>

資料4の③について、スクールバスに夏季は乗れないが、冬季は乗れるという条件の区域が市内には何か所かある。その点について、バスに空きがあるなら乗せたら良いという意見もあったが、市全体での公平性を考慮して、今まで乗せてはいなかった。しかし、昨今の異常気象による暑さやクマの出没を鑑みて、空きがあるのであればできる限り対応しようと、2学期から実証実験として子どもたちを乗車させている状況と伺っている。

この件について、現在の状況を伺いたい。

<教育部長>

2学期から夏冬の区分けをなくして試験運行をしている状況である。先般、学校と保護者を対象にアンケート結果を実施し、現在集計中である。様々なご意見が寄せられており、集計が整い次第にお知らせをしたいが、あまり否定的な御意見はないのではないかと感じているところである。

<市長>

皆瀬小学校、中学校の在り方についても、早急に方針を決定しなければならないものではない。委員の皆様の御意見のとおり、地域の方々と話し合いを進めていきたいので、よろしくお願ひする。

(5) 文化財の保存・活用

文化財保護室長が資料5に基づき説明

<後藤委員>

数年前のこの会議で文化財の話題が出た際に、久米委員が「敵は無関心、無関心な人を作らないことだ」とおっしゃった。それを聞いて、市の歴史文化に市民を振り向かせるにはどうしたらよいだろうかと考えたが、現在、文化財保護室では様々なイベントを開催し、地域の魅力を発信することで無関心層を少しづつ振り向かせようとする取組をしている。

駅前にできる複合公共施設内には、地域の各展示施設をつなぐセンター拠点となるような展示室を準備しているとのこと。交通の便が悪くなかなか各施設に行けなかつた方々も、駅前に行けば歴史的なものを見られると非常に期待されていると考えている。ただし、駅前で満足して各施設の来館者数が減るようでは良くない。例えば、各温泉郷と連携して施設を紹介していただきたり、各施設をつなぐ稻庭うどん等の景品付きスタンプラリーを実施したりと工夫をして魅力を発信していただきたい。

また、次世代への継承ということで、無形民俗文化財である板戸番楽や関口さ

さら舞は子どもたちが非常によく頑張っている。一方で、指導者層は高齢化が進んでいることから、指導が途切れることがないように、映像での保存も検討していただきたい。

＜築瀬委員＞

映像での保存について、国際教養大学で長年にわたり無形民俗文化財の映像保存に尽力していると聞いているのでぜひ見ていただきたい。

昨年の旧雄勝郡会議事堂でのプロジェクトマッピングについて、市民に市の歴史文化を知ってもらう機会として非常に良かったと感じている。しかし、このような取組は多くの財源が必要であり、国から補助金を受けるために文化財保護室は大変苦労をしているので、この点を皆さんに評価していただきたい。

市内にずっといるとわからないが、県外の人から見れば市内の景観でも十分に文化財になりうるものが多くある。また、世の中で話題になっていることに文化財を関連付けてPRすることも頑張っていただきたい。

＜佐藤委員＞

来年には駅前に複合公共施設が完成し、施設内のセンター拠点から旧雄勝郡会議事堂をはじめとした施設に訪れることで、市内の人だけでなく県外の人も市の歴史文化を知るきっかけになれば良い。

先日、大行列が実施されたが、このような行事に子どもたちが実際に参加することで、継承という意識が芽生えるのではないかと思う。自身の子どもも初めて大行列を見に行つたが、「面白かった、来年も行く」と言っていた。参加するだけでなく見に行くだけでも十分だと思う。ただし、「続ける」ということはお金もかかり大変なことであるので、市でも補助金をはじめとしたバックアップをお願いしたい。

温泉宿にポスター等お持ちいただければ、いつでも掲示するのでぜひ持ってきていただきたい。

＜久米委員＞

先日、横手市の県立近代美術館にエジプト展を見に行ってきた。目玉は棺であり、裏側にもびっしりと装飾が施されていた。裏側を見せるために鏡を使っており、大変面白い展示方法だと感じた。その後、市の新たな指定文化財である旧妙応山金剛院のお面を見たが、表面は役や人々の願いが見て取れ、では裏側には何があるのか、色々な想いが内包された何かがあるのかと非常に気になったところである。和歌山県で裏面の研究をしているようで、男性面と女性面で裏面の削り方に違いがあったり、裏側を展示するための修復過程で銘を発見したりと新たな着眼点になると感じた。

見せ方を少し変えるだけで、新たな発見があり、これが文化財の保存・継承に

つながっていくのではないかと考える。

＜教育長＞

委員の皆様の御意見のとおり、無形民俗文化財は指導者が高齢化し、若者世代が抜けているために、いかに継承していくかが非常に問題となっている。今後、継承をしていくために、ただ映像化するだけでなく、3D 映像化等の技術を最大限使うことで、これから世代が継承、再現するときによい活用ができると思う。築瀬委員から無形民俗文化財の映像化の話をもう少し詳しく聞きたい。

＜築瀬委員＞

国際教養大学で県内の民俗芸能を撮影した DVD を作成し、県内の各学校に配付されたのではなかったかと思う。本市の役内番楽等も収録されている。

＜教育長＞

学校が各地域にある間は学校を核にして継承活動ができるが、統廃合をした後にどのように引き継いでいくかが問題となる。統合先の学校で継承していくような体制づくりをしていきたい。

展示の見せ方について、各地の様々な展示会を見ていると、久米委員のご意見のような感じ方もあると思う。本市で開催する展示会においても、展示方法を一つの方法でよしとせずに、様々な方法を考案していくことは文化財を活用していく上で大事にしていきたい。

大行列への参加や温泉郷との連携等、きっかけづくりとしてよいアイディアはまだまだあると感じた。先日、院内銀山で開催された銀山まつりに行ってきた。現地では市外の団体客が多く来ており、銀山おどりを見学する様子が見られた。市内の人よりも興味を持って足を運んでいるように感じ、銀山まつりだけではないが、市内向けの広報の仕方に工夫がいるのではと考えたところである。

＜市長＞

院内銀山異人館等の施設は無料で多くの方に来ていただいてもよいと思うので、実現できるように調整をしていきたい。温泉郷との連携についてもぜひやってみたい。また、大行列については、子どもたちからの「楽しかった」という声は私個人も多く聞いている。もっと参加しやすいように市でもバックアップをしていきたい。

駅前の複合公共施設の文化財ブースについて、今時点で決定している方針等はあるか。

＜文化財保護室長＞

駅前複合公共施設をセンター拠点として、院内銀山異人館、雄勝郡会議事堂記

念館、ジオスター☆ゆざわ、観光・ジオパーク推進課管轄の稻庭城を結び、すべての施設で他施設を紹介できる展開をしたいと考えている。

また、複合公共施設の開館に合わせ、観光・ジオパーク推進課と施設の指定管理者との連携会議を設置することとしており、この中で様々なイベントの展開、施設間の調整を行っていきたいと考えている。温泉郷との連携、誘客についても協議していきたい。

## 5. その他

### <後藤委員>

「音楽のまち “ゆざわ”」として毎月市役所ロビーでコンサートを実施しており、聞きに来た方は皆さん大変気分よくお帰りになっている。今後もウェルビーアイングなまちづくりをしていただきたい。

### <築瀬委員>

日本でノーベル賞を受賞した方々は地方出身の方が多く、中には都会の功利的な学習ではなく、当時の少々のんびりしたところのある地方の学習がノーベル賞受賞者を生むような探求を育てたのではないかという話も聞く。

秋田県では、探求型の学習を先駆けて実施している。自身の力で深く研究し、自身の興味関心を広げていくことで、これから先、ノーベル賞受賞者がでることもあるのではないかだろうか。教育大綱にもあるとおり「高い志をもって心豊かにたくましく生きる児童生徒」を育てられるような教育環境をつくっていきたい。子どもたちもスポーツや勉強はもちろんのこと、何か志を持って日々の生活を頑張ってほしい。

### <佐藤委員>

本市の教育は非常に恵まれた環境にあると考えており、子どもたちにも今はわからなくても、いつか理解できるように話していきたいと感じた。

### <久米委員>

ICT環境の充実についての話題の際、市長が「タブレットがないと何もできない子どもにはなってほしくない」とおっしゃったが、本当にそのとおりだと思う。あくまでICTは時間短縮、効率化のための道具であり、これがすべてではないということである。築瀬委員の御意見のとおり、読む力、書く力、覚える力が低下しないようにしたい。ただし、使える道具は多い方が良いので、ICTを含めた総合的な力がつけられるようにしていけたら良いと考える。

### <教育長>

先ほどの学校再編計画の話題で、触れられなかった部分についてお話ししたい。学校の役割の一つとして、「地域の学校である」という点である。皆瀬地域では地域全体で支えあうような学校づくりがなされている。学校祭等においても、地域と一体となって、地域全体が盛り上がることによって成り立つ行事となっている。これは地域の力、支えを受け、またそれを大事にしてきた子どもたちが育っているということであり、これをどう継承していくかも考えた学校再編計画でなくてはならないと考えている。

また、久米委員の御意見にもある、ICTの活用による読解力等の低下が懸念されるという点だが、授業ではバランスが大切であり、全てタブレットを用いた授業ではなく、しっかり読む力もつけていきたい。先日、ドイツのジークブルク市の学校を訪問した際、授業は全て電子黒板を使用していた。ほとんどの子どもたちがタブレットを使い授業を受ける中、課題解決のためのヒントとなる本を黙々と読む子どももあり、自分のやりたい方法で解決していくことが自然な授業の様に見えた。この授業のように湯沢の子どもたちもなれたらと思う。ICTをツールの一つとして活用するということを抑えながら、今後も授業づくりを進めていきたい。

### <総務課長>

本日の会議は公開を基本としております。今後議事録を作成し、市ホームページで公開することとなっておりますので、御了承ください。

## 6. 閉会

### <総務課長>

それでは、以上をもちまして令和7年度湯沢市総合教育会議を閉会させていただきます。貴重な御協議をありがとうございました。